

# センター試験の既卒志願者数が、 大学・短大の既卒志願者数を上回る“怪”!?

## 高校生の“5.3%”を占める「通信制課程」の 入試データ上での知られざる扱い!

旺文社 教育情報センター 25年1月15日

25年1月19・20日に実施される25年センター試験(以下、セ試)の志願者数は、24年より1万7,807人(3.2%)増の57万3,344人で、2年ぶりの大幅増となり、「現役志願率」も過去最高の42.1%に達している。

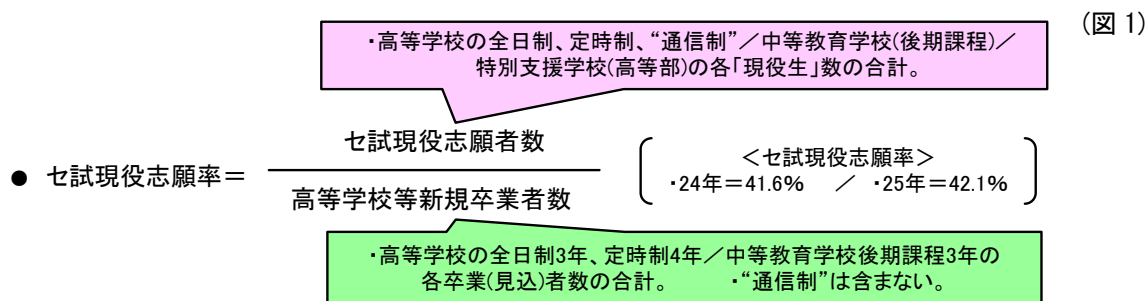
ところで、24年の大学・短大志願者(現役生+既卒者)の「セ試志願率」は75.8%で、「現役生」は68.7%だが、「既卒者」ではセ試志願者数が大学・短大志願者数を上回り、“130.0%”になる。なぜ、そうなるのか。以下に検証してみた。

### <センター試験「志願者数」等のデータ資料>

- セ試における「現役志願率」のベースとなる「高等学校等新規卒業者数」(25年度は25年3月<24年度>卒業見込者数)は、「①全日制高校3年/②定時制高校4年/③中等教育学校後期課程3年」の卒業者(見込者)の合計数である。

他方、セ試の「現役志願者数」は、高等学校等の現役生(卒業見込者)の出願者数で、具体的には高等学校(全日制、定時制、“通信制”の各課程)、中等教育学校(後期課程)、特別支援学校(高等部)の現役生の合計数である。

つまり、大学入試センター発表のセ試の「現役志願率」(現役志願者数÷高等学校等新規卒業者<卒業見込者>数)の「現役志願者数」(分子の数値)には、“「通信制課程」の現役志願者数が含まれている”が、「高等学校等新規卒業者数」(分母の数値)には“「通信制課程」は含まれていない”(全日制、定時制、中等教育学校後期課程のみ)。(図1参照)



- 大学入試センター発表の25年セ試志願者数(確定)のデータ資料では、「出願資格別」に、①「高等学校等卒業見込者」(現役生)=45万9,866人/②「高等学校等卒業者」(既卒者)=10万7,709人/③「その他」(高卒認定等)=5,769人(①~③合計=57万3,344人)を掲載。

そして、③「その他」の内訳は、高等学校卒業程度認定試験合格者等＝5,116人、高等専門学校第3学年修了者＝238人、外国の学校(12年の課程)修了者＝140人など、7つに区分されている。

すなわち、セ試の「出願資格別」では、高等学校等(中等教育学校、特別支援学校含む)の「全日制・定時制・“通信制”」の志願者を「現役生」と「既卒者」に大別し、それ以外の志願者を「その他」(7区分)として掲載している。

### <『学校基本調査』における高卒後の進路、大学進学等関連のデータ資料>

- 文科省の『学校基本調査報告書』では、高等学校(全日制・定時制)、中等教育学校(後期課程)、特別支援学校(高等部)の「学年別生徒数」を掲載しているが、“通信制”(通信制高校含む通信制課程。後述)については「修業年限3年」と「修業年限4年以上」の2区分で生徒数を表示している。

また、『学校基本調査報告書』では、高等学校等の「卒業後の進路状況」については、①高等学校の全日制・定時制／②高等学校の“通信制”／③中等教育学校の後期課程／④特別支援学校の高等部にそれぞれ分けて掲載している。

- 『学校基本調査速報』(当該年度の夏期速報値)における「高等学校の卒業後の状況」(調査結果のポイント)では、「高等学校の全日制・定時制(“通信制”除く)、及び中等教育学校の後期課程」卒業者の進路状況を掲載している。

こうしたことから、所謂「高校」からの「大学・短大進学者(率)」、「専門学校進学者(率)」、「就職者(率)」などは、一般に“「高校の全日制・定時制及び中等教育学校の後期課程」卒業者をベース”にしており、“通信制”は含まれていない。

### <セ試志願者の既卒者数が、大学・短大の既卒志願者数を上回る“怪”!?>

- 高校の“通信制”は、『学校基本調査報告書』で「学年別生徒数」の掲載がなく、ほとんどが単位制であることなどから、当該年度の卒業見込者(現役生)数の全体の特定は難しい。

ただ、セ試や大学・短大に出願する通信制の生徒が当該年度内に修業年限(3年以上)で卒業できる見込み(新卒者＝現役生)があるか、どうかの判断は可能。“通信制”でも全日制・定時制と同様、セ試志願者における「現役生」、「既卒者」別の集計はできる。

大学入試センターでは前述したように、セ試の「志願者」数には“通信制”も含めた高等学校等の「現役生数」と「既卒者数」とを分けて掲載しているが、全国の「高等学校等新規卒業生数」(現役生数)には“通信制”が含まれていない。これは、上記のような状況によるとみられる。(図2参照)

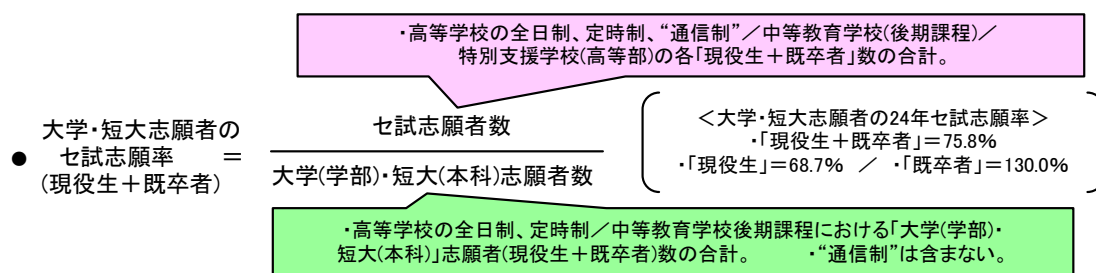
- こうしたことから、「セ試志願者の既卒者数が、大学・短大の既卒志願者数を上回る」といった、通常ではあり得ない(大学・短大の既卒志願者全員がセ試に出願したとしても

両者は同数のはず)“数値上の怪”がみられる。

例えば、24年入試の場合、①セ試志願者の既卒者数=10万9,748人/②大学(学部)・短大(本科)の既卒志願者数=8万4,433人/①-②=2万5,315人

つまり、「セ試志願者の既卒者数」は、「大学・短大の既卒志願者数」より2万5,315人(30.0%)も上回っており、「大学・短大への既卒志願者」の「セ試志願率」は“130.0%!”に達する。(図2参照)

(図2)



この要因としては、次のようなことが考えられる。

- 「セ試志願者の既卒者数」には“通信制が含まれている”が、「大学・短大の既卒志願者数」(高等学校全日制・定時制及び中等教育学校後期課程の既卒者)には“通信制が含まれていない”。

セ試及び大学・短大入試における既卒志願者数は、現役志願者数に比べてかなり少ないため、“通信制”志願者数(現役生・既卒者)の集計の有無は、現役生数より既卒者数に、より大きく影響する。

- 「大学・短大の既卒志願者数」(高等学校側調べ。実数)では、前年度等の大学・短大入学者が当該年度の入試に再チャレンジする場合(所謂「仮面浪人」<合格浪人>)、「既卒志願者」扱いにしない(集計されない)とみられる。これは、「卒業後の進路状況」で同一人をダブルカウントしないためである。こうした「仮面浪人」は進学校を中心に、難関大・学部への“初志貫徹”として、例年、相当数に上るとみられる。

他方、セ試の志願者数では、「仮面浪人」は当然、「既卒者」として集計される。

以上のように、“通信制”課程の特性、「既卒者」の集計をめぐる大学入試センターと高等学校側との相違などから、「セ試志願者の既卒者数」と「大学・短大の既卒志願者数」との関係に“数値上の怪”がみられる。

### <高校生の“5.3%”を占める通信制課程>

- 高等学校には全日制、定時制、通信制の課程を置くことができ、定時制や通信制のみの課程を置くこともできる(学校教育法第53・54条)。
- 24年度現在(以下、同)、通信制の高校は217校(独立校=通信制高校91校、併置校126校)で、公立76校(独立校8校、併置校68校)、私立141校(独立校83校、併置校58校)。また、高校の通信教育に協力する協力校は、406校(公立176校、私立230校)である。

- 通信制の生徒数は18万9,418人で、全高校生約354万5,000人の5.3%を占めている。通信制の生徒数は前年度より1,167人(0.6%)増え、定時制の11万2,187人(占有率3.2%)より1.7倍多い。(図3参照)
- 通信制の修業年限は、従来「4年以上」であったが、平成元年度から定時制・通信制とも「3年以上」に弾力化され、全日制と同様に3年で卒業することもできる。  
因みに、「修業年限3年」とする学校数、生徒数は、ともに「修業年限4年以上」の3倍以上である。
- 通信制高校(通信制課程含む)への入学者は、従来からの勤労青少年だけでなく、フリーターやニート、中退者、「いじめ」問題などで高校教育を受けることができなかった者など、入学動機や学習暦は多様化している。  
こうしたことから、通信制は学校数、生徒数とも増加傾向にある(定時制は、学校数が年々減少、生徒数ほぼ横ばい)。
- 通信制高校(通信制課程含む)の23年度間の卒業生数は4万7,221人で、進学状況は「大学・短大進学者」(通信教育部除く)7,612人(進学率16.1%)、「専門学校進学者」1万192人(21.6%)など。  
また、24年度の「大学(学部)」志願者9,337人、「短大(本科)」志願者1,558人で、「大学(学部)・短大(本科)」には1万895人が志願(出願)している。  
通信制高校の中には創立50周年に及ぶ学校もあり、例年、有力国公立大などへの進学実績をあげている学校もみられる。

